

クラス番号	906	担当教員名	横井 優子
テーマ	他者を理解するために～対人援助技術の基礎を学ぶ～		

## ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

社会福祉の現場で、実際に人と対面してコミュニケーションを図ろうとする時には、相談者の意図を汲み取り、理解することが第一に求められます。しかし、そのことは実際にはとても難しいのです。相談者が語らないこと、語れないことも含めて理解しなければなりません。また、相談者が自分の気持ちを語らない理由やその背景をも含めて、理解しようとする態度が重要になります。

さらに、援助者側の問題にも気づく必要があります。援助者が良かれと思って考えた援助方法と、相談者の気持ちにずれが生じた場合、ついつい相談者に対して説得をしようとする力が入ってしまうかもしれません。そんな時には、相談者と援助者の間に、微妙なずれが生じてくることになります。

地域での連携など、複数の専門家や援助者が、協働して相談者に関わることもあります。そんな時にも、様々な視点から物事を見ることが大切になってきます。

自分と他者のものの見方の違い、基本的な対人理解の方法について、まずは童話や絵本などの題材を使って学習します。それらの題材を自分なりに理解して、他者に伝えることや、他者の考え方や見方を理解する基本的な方法を身につけることから始めます。

授業計画：

1. 自分探しや自己実現など、思春期や青年期の発達課題に沿った絵本などの考えるための素材を提供します。それらを読んで自分なりの見方や理解を整理して、小グループを作ってまとめます。
2. 夏休みに課題を出しますので、その中から選択した課題について、レポートを作成します。
3. 後期には、童話や絵本やアニメなど、自分の好きな作品をレポートにまとめ、他のゼミ生に紹介してもらいます。自分の考えや意見を、客観的で説得力のある表現で伝えることができることが課題です。
4. 学生同士が発表や意見交換を経験する中で、ゼミ生同士の相互理解を図ることを目的とします。
5. 自分たちでフィールドワークを企画し、実際の現場を体験します。

ゼミ生の状況をみながら、課題を考えますが、今のところ、図書は「トマシーナ」P.ギャリコなど、絵本では「僕を探しに」「大きな木」S.シルバシュタイン「自分だけの色」L.レオーニ、などを考えています。



基礎演習では、与えられた課題を発展させて、自分の興味関心の対象を見つけることが課題となります。そして、書くこと、ディスカッションすること、発表することなど、自分の意見を人に理解してもらうように伝えることに慣れていきます。

他のゼミ生の意見に耳を傾け、自分の意見も話せる、そこからまた新しい視点が見つかる、そんな暖かいゼミにしたいと考えています。